

会議録

会議名	平成28年度 第3回 八王子市高齢者あんしん相談センター運営部会
日時	平成28年10月21日(金) 午前10時30分～12時00分
場所	八王子市役所 本庁舎事務棟5階502会議室
出席委員	和氣純子会長、山内英史副会長、小池公江委員、日高絢子委員、平川博之委員、村上正人委員 大久保孝彦委員、栗野洋子委員、田中泰慶委員、小新井妙子委員、吉澤努委員
出席臨時委員	大井みゆき委員、尾崎敏夫委員、堀内進一委員、山田純一委員、秋山純委員、佐々木良委員 片山正文委員
オブザーバー	(高齢者あんしん相談センター長房)樋口センター長、(高齢者あんしん相談センター子安)中村センター長、(高齢者あんしん相談センター寺田)堀間センター長
関連部署 説明員	高齢者いきいき課長 元木、介護保険課長 横溝、地域医療政策課長 高橋
説明者	社会福祉協議会 大島
事務局	福祉部長 豊田、高齢者福祉課長 溝部、高齢者福祉課主査 半田・辻野、高齢者福祉課主事 渡邊 高齢者福祉課嘱託員 林
欠席者	
公開・非公開の別	「公開」
傍聴人の数	「なし」
次第	1 開会 臨時委員の委嘱について 2 議題 (1) 平成28年度第1回生活支援体制整備推進協議会 (2) 平成28年度第1回地域ケア推進会議 3 報告 高齢者あんしん相談センター恩方の開設準備について 4 その他事務連絡 5 閉会

配 付 資 料 名	資料
	次第
	1 八王子市高齢者あんしん相談センター運営部会委員名簿
	2 高齢者あんしん相談センター恩方の開設準備について
	3-1 平成 28 年度第 1 回地域ケア推進会議の開催について
	3-2 平成 28 年度地域ケア会議集計
	3-3 平成 28 年度地域ケア会議集計図
	3-4 八王子地域ケア会議実施報告書
	3-5 質問回答書（平成 28 年度第 1 回地域ケア推進会議意見及び質問に対する回答）
	4-1 2 層協議体実施報告書
	4-2 2 層生活支援コーディネーター活動報告書
	4-3 第 2 層生活支援コーディネーターの今後の取り組み
	4-4 地域福祉推進拠点の運営工程
	参考 市及び市内の見守りに関する取組
	意見書

1 開会

- 【高齢者福祉課主査】 平成28年度第3回高齢者あんしん相談センター運営部会を開催する。
- 【臨時委員委嘱について】
- 【高齢者福祉課主査】 今回と翌年2月3日の第5回運営部会は、前回の会議で決定したとおり、臨時委員を呼びことになった。本日、臨時委員ということで、7名の方に社会福祉審議会委員の辞令書の交付を高齢者福祉課長より行う。それでは臨時委員の方、起立願う。
- 【高齢者福祉課長】 部長欠席のため私が代わらせて頂く。
辞令書交付。
それでは、ここで委員に就任された方から、自己紹介を簡潔に一言ずつお願いしたい。
- 【大井委員】 八王子市高齢者あんしん相談センター片倉大井と申す。市内16箇所の地域包括センターの代表として臨時委員を承る。
- 【尾寄委員】 八王子市社会福祉協議会地域福祉推進課長兼ボランティアセンター所長尾寄である。
- 【堀内委員】 八王子市民活動協議会堀内である。今まで福祉には、手が回っていなかった包括ケアシステムということでハンドブックを作成した。市内65団体を集約した。地域資源として活用してほしい。
- 【山田委員】 八王子薬剤師会山田である。薬剤師会で地域包括ケアシステムの中で何ができるか課題として進めている。
- 【秋山委員】 八王子保健生協から推薦で選任のあった秋山である。所属は東京都生活協同連合会ということで77生協300万人の都民が加入している。八王子市内45%の方が生協の組合員になっている。色々な形で地域資源の中で役割を果たしていきたい。
- 【佐々木委員】 東京都南多摩保険医療圏域医療地域リハビリステーションセンター佐々木である。実務は東京天使病院でリハビリステーション科課長をしている。今日も10時まで患者を診てきた。リアルタイムで要支援の方をどうするのか聞かれるが、真ん中にいながら答えられない。
- 【片山委員】 東京都柔道整復師会南多摩支部片山である。柔道整復師会として出来ることをしたい。
- 【高齢者福祉課主査】 本日の高齢者あんしん相談センターオブザーバー参加は、高齢者あんしん相談センター長房の樋口センター長、センター子安の中村センター長、センター寺田の堀間センター長になる。
配布資料の確認。
本部会は原則公開とする。今回についても公開としてよろしいか。
- 【全員】 異議なし。
- 【高齢者福祉課主査】 報告に入る。ここからの進行は、本部会運営要綱第4条に基づき、会長にお願いすることになる。和氣会長、よろしく願います。

2 議題

【議題（1）：平成 28 年度第 1 回生活支援体制整備推進協議会】

【和 気 会 長】 次第に沿って進める。【議題（1）：平成 28 年度第 1 回生活支援体制整備推進協議会】について社会福祉協議会から説明をお願いします。

【尾 寄 委 員】 今後の第 2 層協議体の実施状況、各圏域コーディネーターの活動状況、生活支援コーディネーターの取り組み及び地域福祉推進拠点の運営工程について報告する。第 2 層協議体の実施状況について手元の資料 4-1 を基に説明する。

本市との委託契約に基づく協議体の設置運営にかかる報告書は圏域ごとに作成。第 2 層の協議体については高齢者の生活支援に関する情報交換会として包括をはじめ市民活動協議会、民生児童委員、居宅介護支援事業所等の団体関係者に出席を頂き第 1 回目の協議体を 8 月 25 日から 9 月 28 日の間で延べ 6 回開催した。9 月 28 日に開催した中央部圏域については、8 月 30 日を予定していたが台風の影響により 9 月 28 日に延期。協議体の内容は、介護予防、日常生活支援総合事業について概要を説明し、その後グループに分かれて情報交換をし、出された意見を発表した。各圏域の共通の課題は買い物や、通院の為の移動手段の確保、電球を取り変えるなど担い手の仕組みが必要でないかと意見があった。地域課題は、北部圏域では杏林大学が転出した為、バスの本数が少なくなったこと、東部圏域は大学との連携が挙げられた。このような会議を年度内にもう一度開催し地域ニーズ、担い手把握に努める。

生活支援コーディネーター活動状況は資料 4-2 となる。この報告書も、本市と委託契約に基づき作成し、本年 4 月から 8 月までの実績を集計した資料。記載内容は、調整内容別の実績、会議の開催、出席状況、研修の開催及び参加状況。取り組み状況等の 4 項目、調整内容別の実績は、事業調査、サービス開発、担い手養成に分類する資源開発、ネットワーク構築、ニーズと取り組みのマッチング、その他の取り組みに分類されており、市民行政機関等の対象別に分類する表となっている。支援の報告書としては月別の活動内容示した内訳書類もあり、市との委託契約の確認をしている。圏域により実績数値に差はあるが、比較的件数の少ない北部圏域は開設済の石川拠点での取り組みがある。中央部圏域と東部圏域は社協職員として長い間経験を積み、石川拠点の開設に向けて活躍した職員が張り付いているので、これまでの知識や経験を生かしながら取り組んでいる為、報告数値としては少ない。

生活支援コーディネーターの今後の取り組みは資料 4-3 となる。協議体での情報、サロン等の地域活動に赴き収集した情報などを踏まえながらニーズに立脚した住民相互の支えあい活動の拡充に取り組む事としている。この資料は圏域ごとの課題に対し解決に向けた目標を短期、中期、長期に区分して示したもので、ニーズ調査や市民関係団体等からの意見を踏まえ拡充、整理していく考えである。

資料 4-4 は現在市と共同で進めている地域福祉推進拠点の運営工程を示したものである。拠点整備は平成 26 年 12 月に開設した石川拠点に続き、川口事務所の 2 階に 2 か所目の拠点を開設すべく現在地元町会等と調整を行っている。今後各地域福祉拠点に生活支援コーディネーターの配置が計画されているので拠点運営に関する考え方を示した。拠点開設は場所の選定、地域調整などを経て地域の意見を十分に聞きながら拠点整備を進めていく。ステップ 1 の開設当初から 2 年目までは拠点の知名度を高め、福祉活動への関心を高めると共に地域連携を進める機関とし、3 年目から 4 年目のステップ 2 では地域人材の育成や連携の場づくりに力を注ぎ、5 年目以降のステップ 3 では、住民参加による拠点運営と地域福祉活動を推進する事としている。資料中段には各ステップで取組む内容を記載し、最終的に社協が基本理念としている「あなたも私も主役つながりあい支えあうまち八王子」の実現を目指していきたい。

本日 2 枚の地域アセスメント基礎情報シートを配布した。このシートはコーディネーターが今後事業を進めていく中での基礎資料となる地域の状況や、地域の課題、地域資源等々を記載したものである。基礎情報シートも、様々な情報をもらい課題を拡充していくという考えで作成した。本日会議が南大沢であり、大島課長補佐が来ているので、質疑は大島で対応する。

【和気会長】 内容について意見・質問等あるか。

【和気会長】 第 2 層コーディネーターの活動報告書を資料 4-2 で、各圏域によって格差があるとの説明だったが、数の捉え方は延べ回数なのか、どういった算定の形でやっているのか聞きたい。

【社会福祉協議会】 延べ回数である。

【和気会長】 4 月からみなみおおさまカフェの設立に向けて会議を行った。ネットワーク構築が 2 になっており、色々な団体の方とも話をし、資源開発や担い手開発とも考えられ、解釈によって数字が変わるような書き方が可能かと思うが、教育機関とのネットワーク構築が 2 としか書いてない。何回も出席なのか、1 つの大学だから 1 という感じに換算し、全体として数が少なくなっているのか、と推察した。

【社会福祉協議会】 報告書については東南部のコーディネーターが直接動いた表記の仕方で首都大の集まりについては東南部の担当のコーディネーターの欠席が何回かある。かわりに他の職員が参加し、東南部のコーディネーターが実際に動いた表記となっている。実際には社協の方から参加している。2 回しか参加していない時は 2 としている。他の職員は毎回行っている。

【和気会長】 東部はネットワーク構築にのみ数字記載がなく、資源開発も行っていないように見える、もう少し見せ方があるのではないかと。資源開発といっても目に見えた開発と開発に至るまでの色々な工程があったと思う。そこは周りの人も理解したい、応援したいし、実態も把握したい、1 年経ちようやく目に見える成果があると思うが、工程を知らないと十分な評価ができない。例えば資源開発、資源調査、担い手養成など記入がないと、動いてなかったという理解でよろしいか。

【社会福祉協議会】 この期間に限るが、担当のコーディネーターはすでに 4~5 年前からこの地域を担当しているので資源調査は十分把握しており、この期間は特に動かなくても把握している。コーディネーターを専任でなく兼任で行っている職員もいるので、不十分なデータだったのかもしれない。

- 【和氣会長】 少なくとも2回は来ている、学生とも交流し、広い意味での担い手養成であるが、何も書かれていないので、書き方をもう少し現実に即して記入してほしい。
- 【社会福祉協議会】 ネットワーク構築でもあり担い手でもある。ダブルカウントの考え、形になる。その方が実態に近い。主たるものをつけてくださいと話聞いている。
- 【和氣会長】 そういう考え方も理解はできるが、空白が多くて誤解を招いたら気の毒。市からは何も指導がないのか。お任せか。
- 【高齢者福祉課嘱託員】 書き方はマニュアル化している、その時の主訴に基づいてカウント入れるという事なので複数カウントを入れない形で月報の作成をしている。
- 【小新井委員】 あまりよくわからない。
- 【和氣会長】 どういうカウントの方法が正確なのか。目的としては、コーディネーター機能が果たされているのか、バックアップできているのかが大事、件数が多いから良い少ないから悪いというわけではない。より具体的に実態を把握できれば色々な意見も出しやすいし、何が欠けているかという議論も出やすいのではないかと。報告書の中身については書かれてあるのである程度了解できる。
- 【高齢者福祉課長】 1回行ったら1件という形でカウントしているが、その1回がどういう内容のものなのか、なかなかこれだと受けとれない。検討する。
- 【堀内委員】 まずは課題の拾い出し、会合の設定が年間2回位で、色々な課題を持った内容が年2回の会議でうまくフォローしていけるのか、気になっている。進捗を含めてもう少し会合をもてばよいわけではないが、2回というのはどういう所からきているのか伺いたい。
- 【高齢者福祉課長】 平成28年度から第2層コーディネーターの配置し、6人ということでスタートした。当初の予定として上半期に資源の把握、人材の把握、取りまとめたうえで7、8月に第2層の協議体を1回行い、今回がその報告になっている。下半期12月あたりに第2層の協議体を2回目、2月の部会でモニタリング、といった流れ。今後の進め方として第2層の協議体を何回実施するのか意見をもらう。
- 【和氣会長】 新規の事業なので手探りという部分があるが、社協はどのような印象を持ったか。
- 【社会福祉協議会】 地域福祉の推進で拠点整備を進め、地域プランの中から拠点を中心に住民の福祉力を高めていく。その流れの中にコーディネーター業務があり、報告書を作るなど色々な事務作業が増えた事は間違いない。若くまだ経験の少ない職員もいるので、職場面の人材が課題であると感じている。
- 【秋山委員】 社協も大変かと思うが、西南部圏域の報告書の今後の課題でも触れているが、第2層の協議体の中での参加者が今後どういう中身、資源の問題や協議体への参加者をどう広げていくのか、このままでいくのか、検討を進めてもらいたい。現時点で社協や市での考えを教えてほしい。ポイントとなるのは生活支援コーディネーターがどうやって経験を積み、これからどのような形で地域とのつながりを作っていくのか、手探りの中で大変だが、地域の中に根差していけるような存在になるように考えている。生活支援コーディネーターの横のつながりが大事なので、研修や情報交流の在り方等について今後も進めていってほしい。

- 【高齢者福祉課嘱託員】 参加者については圏域が広いことも踏まえて、地域の実情に合わせて参加者を広げていくという形で、第2層の協議体は参加者を固定せずテーマごとに、地域の実況に合わせて回数を増やすという事を考えている。参加者も、テーマごとにそのつど地域の実情に合わせた参加者の方に意見を求めながら進めていきたいと思う。
- 【和氣会長】 時期的なテーマに合わせてということだった。その他どうか。
- 【大井委員】 第2層の協議体で各地区、様々な課題があがっている、地域へのフィードバックについてどう考えているか。
- 【高齢者福祉課長】 フィードバックは何らかの形である必要がある。案件を市全体の課題という事で吸い上げるのか、地域特有の課題として解決していくのか、ケースバイケースで対応する。個別案件ごとにみていくという事と、フィードバックの仕組みを系統的に考える必要があるのか、議論できればと思っている。
- 【和氣会長】 こちらの推進会議にはフィードバックはして今日のような形でして頂いている。全市的に取り組んでいく事は推進会議、ケア会議の中で話し合っていくことになろうかと思う。それ以外に全市的なものとして取り上げられないがその地域にとっては重要な課題というのものもある。協議体の中に地域で解決していけるような、話し合っていけるような仕組みがある地域なのか、ない地域なのか、あり方も含めて。
- 【社会福祉協議会】 現場サイドで、協議体に参加した参加者には報告書をフィードバックという形で共有していく。
- 【和氣会長】 参加しなかった地域の皆様や、関係者のへのフィードバックは、どうするのか。出ていた人は中身を分かっているが、どういった形でやるかということ市から意見があったか。
- 【高齢者福祉課長】 この後の地域ケア推進会議の中でも、各センターでやった地域ケア会議のフィードバックをどうするかという疑問が出ている。考え方としてはこの協議体についても地域ケア会議も同じだと思う。その仕組みについては後程検討する。
- 【社会福祉協議会】 地域のフィードバックしかないが、2層内部で考えているのは地域に学習の場を作っていく。学習の場を作るにも技術が必要であり、技術を勉強しようと考えている。
- 【和氣会長】 地域ケア会議との関わりもある。包括中心で進めていることなど密接に連携しなければいけない。合わせて考えてほしい。
- 他に質問等はあるか。【議題(1)：平成28年度第1回生活支援体制整備推進協議会】は以上となる。よろしいか。
- 【議題(2)：平成28年度第1回地域ケア推進会議】
- 【和氣会長】 次に、【議題(2)：平成28年度第1回地域ケア推進会議】になる。事務局より説明をお願いします。
- 【高齢者福祉課長】 今年度前半に各高齢者あんしん相談センターにて地域ケア会議を行い、内容を早い段階で示し、意見を頂きたいという趣旨である。

【高 齢 者 福 祉 課 長】 資料 3-1 をもとに説明。八王子市においては、地域ケア会議、地域ケア個別会議、個別ケース会議、包括で行う会議を二つに分けている。地域ケア個別会議は小地域ごとの地区課題をきっかけとして課題を共有、検討する会議と位置付け、個別ケースケア会議は、当事者、困っている当事者本人を中心に相互的な進めを行った上でその人の支援を地域関係者が検討する会議とし、これら各高齢者あんしん相談センターで行った二つの会議を取りまとめ、市の施策や計画等に反映させるための地域ケア推進会議を行う。この3つを含め、地域ケア会議と言う。

各包括で実施されたケア会議については、資料 3-3 参照。49 枚の報告書が上がっているが、内訳は地域ケア個別会議が 65%、個別ケース会議が 35%の割合であった。会議が持つ機能別集計で中身を見ると、個別課題が 19%、ネットワーク構築が 37%、地域課題発見が 18%、地域づくり資源開発が 22%という割合。下は地域ケア個別会議、個別ケース会議の内訳で、地域ケア個別会議はネットワーク構築や地域課題発見、地域づくりが主な内容となっている。個別ケース会議は、個別課題が 50%を占め、ネットワーク構築などの機能を有している。内容と課題で提案したのは、非常に多岐にわたると思うが、専門分科会でも見守りの話があり、見守りに関するテーマを提案する。提案に基づき資料 3-5 の委員から頂いた質問、意見では、見守りに関する意見も一部入っていた。大きい所では、地域ケア会議の仕組み、その仕組みについての提案や意見が多かった。今日については、経緯もあるので、質問回答書の中身を確認してもらい、その中で議論的なことがあれば議論頂いた中で、今後の地域ケア会議について、どうあるかという議論を最初に行えばいいと思う。

【和 気 会 長】 内容について意見・質問等あるか。

【田 中 委 員】 膨大な資料を拝見したが、圏域ごとにどのような会議が開催されているのかと思った。高尾と左入と長沼の報告書がない。これは、何か理由があるのか。

【高 齢 者 福 祉 課 長】 この時期に実施がなかったため。前年度の状況によると、数の多い少ないはあるが、やってない包括はない。疑問を事前に頂いているので、質問回答書の中身を説明させてもらい、そのうえで議論させて頂いてよろしいか。

【和 気 会 長】 よろしくお願ひする。

【高 齢 者 福 祉 課 長】 資料 3-5 のとおり説明。地域ケア会議の手引き本の抜粋をモニタリングやフィードバックで今後継続するには重要になると記載があり添付した。概念的な事が書いてあり、具体的にどうするかは個々の自治体次第である。参考につけた。金沢市の報告書は、細かく会議の内容が記載されており、八王子で使用中の用紙より情報量が多い記録用紙を使用し、このような情報伝達を行っている自治体もあるため、参考で説明をした。見守り協定事業者一覧、24 の事業者で最近幼稚園保育園協会など新たな参入もあり、事業者数は増えてきている。地域支援組織一覧、12 の地域組織に登録している所である。内容は制度の案内でその地域がこういった形でやっていくか方向性を示すものとなっている。

【田 中 委 員】 地域ケア会議は圏域ごとに進んでいるが、以前色々と議論した基幹型包括の役割を全然見えない。その辺を教えてほしい。

- 【高 齢 者 福 祉 課 長】 基幹形包括は、各包括を取りまとめ、バックアップする基幹形の包括が必要であるという話の流れの中で、その役目を高齢者福祉課の方で担っている。研修の実施、困難事例の吸い上げ、アドバイスなどを行っている。その中で地域ケア会議への関与、仕組みそのものを考えると、個別のケア会議の参加は、案件によって包括の方から出席依頼が来る。相談担当のケースワーカーが依頼を受け、ほとんど出席し出席率は高い。会議に参加することで基幹形の一つの役割を果たしている。
- 【 田 中 委 員 】 出席するだけでなく、基幹形としての機能があるので圏域ごとにどういう形でまとめていくのかを機能として考えるべきだと思う。ネットワーク作りの構築にしても、地域ごとの特有な事情がある、それをどうやって横に展開していくか、横並びでそれぞれがやるのではなく、そこに介入し共通なものは指摘し関与の仕方が必要。ただ出席するだけでは意味がなく、今後の課題である。
- 【 和 気 委 員 】 委員の意見等について市の考え方や課題なども答えて頂いた。ケアマネジャーへの研修も行い、地域ケア会議のシステムやケアマネの中でも主導的な立場にある方々がどの程度知っているのか、どのような課題があるのかを話し合い、やはり地域差があるという声があった。会議のシステム自体が複雑で十分理解されていない、何が話し合われていてフィードバックも含め行き来が十分にされていない。どういう基準で誰が参加しているのか、一度も呼ばれていない等、色々な意見があった。ケアマネは地域の第一線で働いている主要な方で一番情報を熟知しているべきはすの方々においても情報が周知されていないという現状がわかった。地域ケア会議のあり方、情報共有、個別のケースの情報は守秘義務の関係でかなり限定的に行うべき、今回報告された個人情報黒塗りされており、地域で共有すべき課題もたくさん載っているが、包括ごとに市民が参加し、会議のようなものを設けて情報交換を行う。インターネットを使用し公開していくのか、どちらかになる。ソフト面・ハード面含めて、意見ほしい。
- 【 佐 々 木 委 員 】 個別の案件を見ると、一生懸命取り組んでいる。そこに関しては批判的な意見はない。例えば、今日午前中診てきた患者だが、この方は回復期にどれくらい入院できるのかご存か。東京天使病院の回復期にある方、最大で150日しかない、この方は介護保険をもっている、今、回復期というのが点数制になり、エビデンスというものになった。エビデンスを求められる、あと2週間ほどで、階段が登れるようになって帰っていく、2週間という期間でどれだけよくなったのか点数がつく、点数が何点以上じゃないと減算、こういう制度。大体帰ってくるのが1か月半、少ししかあがらないのに介護保険待ちになる。家に帰って大学生の娘さんがいて2人暮らし、娘さんが結婚してどこかへいってしまう、そうしたらこの方はどうするのか。要はグランドデザインというもので、今後どうしていくものかという、見守りとかネットワークとか、触れ合い、参加とか、曖昧な表現。具体的にこの人どうするのか、というのが意見で見えてこない現場が困ると思う。

例えば、介護保険の申請をだして、医療はどんどん短くされてく。その中で、何で介護保険待ちで入院させてないといけないのか、不利益は全部病院。どうやって解決していくのかが、とても難しい事だと思う。他の会議ではもう少しアクティブな議論があった、その会議の話ではご当地体操の話が出て、定年になってもやりますか。正直僕はやりたくないなど。それで参加かと話をしてあまり意味がない。それだったらたとえば高尾山に登山しましょう、キャラバンのリング持っている方がいる。支援したりしながらやっっていこう。もう少しやりがいがある、そういった事業を展開していく方が、具体的なのではないか。例えば、ランドデザインについて具体的にどうやっっていこうと思っているのか。

【和氣会長】 医療と介護の連携というのも、包括ケアシステムの中でどういう風に構築していくか、本当に住民がやりたい活動が今ない状況で、住民が本当にやりたい介護予防をどういう風に反映させていくのかが含まれているのではないかと。

【佐々木委員】 事業の評価としてエビデンスをどう作り上げていくのか、

【和氣会長】 市の方も積極的に取り組んでいくという課長の見解もあったが、今の点のようなことを色々疑問に思っている方がたくさんいて、どういう風に地域で反映させていくのか、ランドデザインを話し合わなければいけない。今後の方針も含めていかがか。

【高齢者福祉課長】 大きい話になるが、基本的な考え方は介護保険事業計画で市としては示している。漠然とした話になってしまうが、その辺を踏まえ、ここでは自由な意見交換、枠にとらわれないような意見交換をしたい。

【栗野委員】 主任ケアマネの存在について地域ケア会議をそれぞれの包括で行い、ケアマネも担当して色々な所を行かれているの、どこでやっているからわからないという声も実際に会中で聞いたので、こういうのをやっていますというようなフィードバックをできるように、どこかに発信する場を作って頂きたいので、検討頂ければ。

【高齢者福祉課長】 広く一般の方に情報公開という形で、例えばホームページ上に概略になるが、個人情報伏せた形でこのような会議がありましたと報告する手もあるし、包括ごとに関係者を集めて、情報交換を踏まえながら、情報共有を図っていくという手段もあると思う。いくつかやり方があると思うので、皆さんの意見をいただければと思う。

【和氣会長】 市としては、見守りについて全体で共有できるシステム作りとして今後、話し合っていくという方向があったと思う。プラスα、次回、情報の共有やフィードバックのシステムをそれぞれの圏域で包括の方の取り組みもまちまちと思うので、個別性を重視しながらも、整理し、何か提案して頂ければ。見守りについてどう考えているのか、市の方針を確認していただきたい。

【高齢者福祉課長】 今回、見守りについて非常に多岐にわたる事業が展開されていて把握しているものを一覧表で作成した、何らかの見守りの手法にどこかにひっかかればいいのかと、層を厚くして作業が必要なのかと思う。次回議論ができればと考えている。

【和氣会長】 ほかに質問等はないか。それでは、【議題(2)：平成28年度第1回地域ケア推進会議】は以上になる。よろしいか。

3 報告

【報告：高齢者あんしん相談センター恩方の開設準備について】

【和氣会長】 続いて、【報告：高齢者あんしん相談センター恩方の開設準備について】事務局より説明をお願いします。

【高齢者福祉課長】 過日、高齢者専門分科会で説明した内容と同じ。来年4月1日に元八の圏域を分割して、恩方事務所内に包括恩方を新設する。受託法人が医療法人社団光生会ということで、11月に議会の方にも報告し12月から順次市民の方に引き継ぎも含めて情報を公開する。

【和氣会長】 内容について意見・質問等あるか。

【和氣会長】 専門分科会でも委員と私からも発言があったが、1つの法人が3か所目の受託ということになり、選定の過程でも複数の委員からなるべく多くの法人の方に地域包括ケアを担って頂くという観点から、その辺はどうなのかという質問があった、今後については1つの法人が何か所までとか、検討していくことなる。

【高齢者福祉課長】 次回ご出席の際に議論させてもらう。

【和氣会長】 ほかに質問等はないか。それでは、【報告：高齢者あんしん相談センター恩方の開設準備について】は以上になる。よろしいか。

4 その他事務連絡

【和氣会長】 続いて、その他事務連絡として事務局より説明をお願いします。

【高齢者福祉課主査】 次回の第4回運営部会は11月25日金曜日に開催する。通常の運営部会のため、常任委員のみに出席いただく。2月3日金曜日開催の第5回運営部会では、再度生活支援や地域ケア推進会議を行うので、臨時委員にも出席してもらいたいと考えている。別途通知する。前回会議後、書面にて希望者を募った3センター訪問については、本日午後1時15分に高齢者福祉課へ集合願う。希望者には机上にスケジュール表を配布してあるので確認願う。

【和氣会長】 その他、委員のから何かあるか。

【田中委員】 第4回目開催場所は。

【高齢者福祉課主査】 804会議室となる。

【小新井委員】 時間は。

【高齢者福祉課主査】 9時半から。

【和氣会長】 私ども大学の方でも地域の世代交流カフェとか色々な企画をしてチラシを配った。地域包括ケア推進については今まであまり関わってこなかった方々をいかに巻きこんでいくかというのが重要かと思う。八王子は大学がたくさんある街ということもあるので、それぞれの領域でできる事をやっていこうということで、参考までに資料を2枚配付した。他にないようなら、本日の議題・報告等はすべて終了になる。議事の進行は終了したので、進行を事務局に戻させていただきます。

【高齢者福祉課主査】 本日の会議の中で、言い忘れた点、言い足りなかった点があるようなら、配布した意見書にて、10月28日金曜日までに意見を寄せて頂きたい。生活支援及び、地域ケア推進会議については読む事もたくさんあると思うので、随時意見を頂ければと思う。それでは、以上をもって、本日の会議は終了させていただきます。

会議録署名人 _____ 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 署名